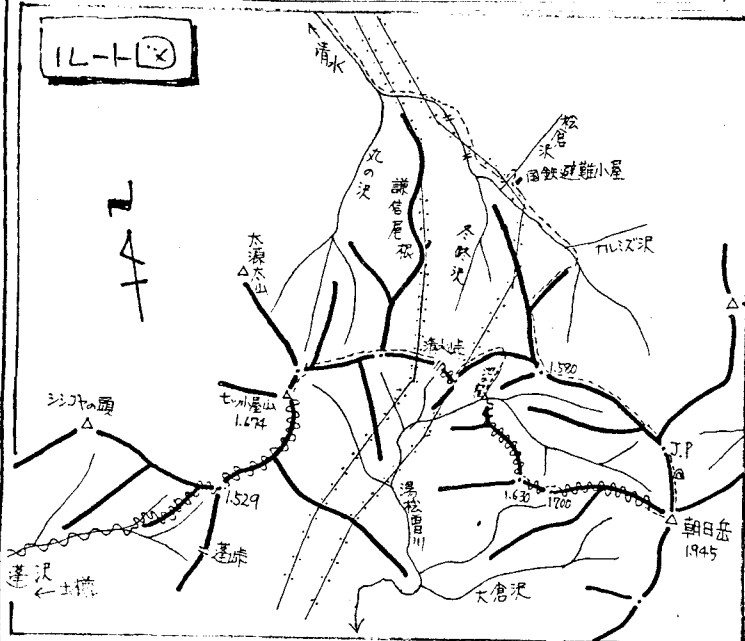




これ、ひとしきり山岳展望を堪能する。8:00近くになってから、朝日岳へ出発する。朝日岳からはスキーを着けてはいよいよ滑降開始。湯檜曾川本谷の左岸の尾根を、アイスバーンにエッジでカリカリ者を立てながら滑り出す。



このコースは、去年七ツ小屋山から丸の沢と一緒に滑った時に、菅沼代が目をつけていたものだ。本谷を滑るといふプランもあったが、斜面はこの所の雨のためか、堅く凍って更にブッシュも顔を出して、今回は、とてもスキー向きの条件ではないので、やはりこの西尾根コースをとる。しかし、ザラザラと細かい凹凸があり、斜度も比較的緩いとは言え、アイスバーンを滑るのは気持ちのいいものではない。1800m辺で陶山代が30m程滑落して、ブッシュの所の新雪で止まったが、冷汗をかく。この先、どうなるのか心配になったが、1700m辺からは一転してまったく、スキーのためにあるような滑り良い雪となり、池の窪沢出谷の1400m辺までの広い尾根を思いへのシブールを描きながらスツとはす。沢の中で一息入れて周りを見渡すと、抜けるような青空をバックに、ブナの木の新緑の白のコントラストが、なんとも言えず

きれいだ。振り返ると、今、自分達だけがつけてきたシブールが残っている。まさに山スキーをやっていると本当に良かったと実感する瞬間だ。なんだか今回参加できなかった人には申し訳なくなるような、最高の気分だ。シールをつけ池の窪沢をつめ清水峠を聖由して七ツ小屋山へ向う。七ツ小屋山々頂からも、今度はザラメのような雪が滑り易い言う事無し。蓬峠手前の1544mのジャンクションの小ピークから、シゴヤノ頭寄りの最初の枝尾根を蓬沢へ滑り込む。この斜面も文句ない雪で、蓬沢まで一気に滑り降りる。まさに痛快そのもの。お互い顔を見合わせて思わず顔がほころぶ。これだからヤメラレ無いのデス。これが蓬沢の本流に入る所で、途端にザラザラの湿雪に変わってしまったのだから、山の雪は全くわからない。ここで七ツ小屋山から踏跡のあった3入パーティに会う。

蓬沢はまったくの湿雪で、ヒェ曲がらネーとか、リヤトップ開きが有効であるとかないとか、わめき合いながらどんどん滑り降りる。途中、枝沢から相当大きなデブツが出てくるが、結局スキーをつけて快調に630mの所の橋迄、滑る事ができた。ここからスキーをかついで土樽駅までは、ほんの10分程だ。15:01発の鈍行を待つ間、ホームでシラフからコンロから、荷物を全部広げて、虫干しをする。もう陽差しもすっかり春らしくなった感じである。今回、後半は、予想に反して、良い天気と良い雪にめぐまれ、まさに山スキーの痛快さを満喫できた一日であった。



< 3/13 > ⑥ 赤野 6:00 ⑦ 清水 6:25/50 — ⑧ 丸ノ沢 出合 10:00 H1040m — H1330m ⑨ 10:50 / 11:20 — ⑩ H1580m 稜線 12:00/10 — ⑪ H1800m アイゼン着ける 13:15/25 — ⑫ H1950m J.PEAK — ⑬ H1940m 14:18 (雪洞 14:30~16:45)

# 高津倉山

1982 3.7



'82.3.6 高津倉山 大峰山 登山 田中健 撮影 by Suganuma

## 高津倉山行に参加して 田中健

1. 初めてのスキー・ツアーでした。3回シールをつけて登り、2回滑りました。楽しむことができました。
2. 天候に恵まれ、上越の3月の雪とは、思われない程いい雪でした。新雪しかありません。
3. 今回は、後3をついて歩いたのですが、はやく、自分でモルトをとりながら行けるようになりたいものだと切に思っています。

☆ < 3/14 > ① 5:00/7:55 — 朝日山頂 8:05/20 — ② スキー着る 8:25/40 — ③ H1630m 9:10/30 — ④ H1400m 池の窪沢出合 9:45/10:05 — 清水峠 10:35/45 — ⑤ 1675m 七ツ小屋山 11:35/50 — H1544m J.P 12:05/25 — H960m 蓬沢 12:45 — H630m 橋 ⑥ 13:30/55 — 土樽駅 14:05/15:01 — 高崎 16:33/45 — ⑦ 上野 18:46